

事業コード	0020101	政策コード	04	政策名	秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略						
事業名	あきたコメ活プロジェクト推進事業	施策コード	02	施策名	「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進						
		指標コード	01	施策目標(指標)名	秋田の「食」の柱となるオリジナルな商品の開発とブランディング						
部局名	観光文化スポー	課室名	秋田うまいもの販売課	班名	調整・食品振興班	(tel)	2258	担当課長名	柴田靖	担当者名	岡本健

評 価 対 象 事 業 の 内 容

<p>1-1. 事業実施の背景(施策目標の達成のためになぜこの事業が必要であったのか) 本県は、米の生産量が499千トン(平成29年産)と全国3位の米産県であり、独自の米文化が根付いているが、秋田米の大半が玄米や白米で県内外に販売されており、良質な秋田米を原料とする米加工分野の成長が大きな課題となっている。</p> <p>1-2. 外部環境の変化及び事業推進上又は完了後に明らかになった問題点 平成30年からの米の生産調整(減反)廃止により米の需給体制の整備が急務となっている。米加工分野において、原料米調達から加工、流通販売までの一貫した流れがなく、米生産県のメリットが生かされていない。</p> <p>2. 住民満足度の状況(事業終了後に把握したもの) 満足度を把握した対象 受益者 一般県民(時期: R03年 04月) 満足度の把握方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の手法 (具体的に) 満足度の状況 県産加工用米(糯米含む)の品質に対する県内外事業者の高い評価がある。県内米加工事業者より機能性素材や新品種を活用した商品開発の要望がある。消費者はスナック・パフ系の柔らかく新しい触感を好み、「発酵」「機能性」に興味を示している。</p> <p>3. 事業目的(どういう状態にしたかったのか) 生産から加工、販売までの一貫した体制づくりや県オリジナル技術を活用した製品開発を推進することで、米加工分野の製品出荷額や関連事業者数を増大させ、食品産業の基幹に成長させる。</p> <p>4. 目的達成のための方法 事業の実施主体 県、秋田コメ活プロジェクト推進協議会 事業の対象者・団体 県内米加工事業者 達成のための手段 事業の推進母体として、生産・加工・小売等の事業者や団体、行政からなる「秋田コメ活プロジェクト推進協議会」を設立したほか、分野別・目的別のワーキンググループを設置することで、各分野での商品開発を促進していく。</p>	<p>5. 前回評価における指摘事項等</p> <p>指摘事項 (一次評価結果) 本県の食料品・飲料等製造品出荷額等の数値を押し上げるためには、基幹となる新たな分野を育成し、成長させる必要がある。本事業で取り組む米加工分野は多くの食品事業者が参画可能な裾野の広い分野であるため、引き続き県が力を入れて推進していくべき事業であると言える。</p> <p>指摘事項への対応 県オリジナルの米加工品分野の育成のため、協議会参画事業者が消費者ニーズに対応した売れる商品づくりの支援を行った。</p> <p>6. 事業の内容 事業概要及び推進状況 本県食品産業の基幹となる新たな分野を育成するため、米菓やその他の米加工品、麹を活用した発酵食品を対象に、県内で原材料調達から商品加工までの一貫した取組として、「あきたコメ活プロジェクト推進協議会」での検討結果等を踏まえ、米菓、味噌、日本酒等の主要な米加工分野を対象に商品開発や販路開拓支援、総合食品研究センターが開発した米加工技術の移転を行った。</p>																																					
<p align="right">事業年度 平成30年度 ~ 令和02年度</p>																																						
<p align="right">事業費等 単位(千円)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">内 訳</th> <th>当初計画事業費</th> <th>最終事業費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">米加工分野販路開拓支援事業</td> <td align="right">15,066</td> <td align="right">8,799</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td align="right">0</td> <td align="right">0</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td align="right">0</td> <td align="right">0</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td align="right">0</td> <td align="right">0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">事業費計</td> <td align="right">15,066</td> <td align="right">8,799</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">財源内訳</td> <td>国庫補助金</td> <td align="right">7,509</td> <td align="right">4,220</td> </tr> <tr> <td>県 債</td> <td align="right">0</td> <td align="right">0</td> </tr> <tr> <td>そ の 他</td> <td align="right">6</td> <td align="right">6</td> </tr> <tr> <td>一 般 財 源</td> <td align="right">7,551</td> <td align="right">4,573</td> </tr> </tbody> </table>		内 訳		当初計画事業費	最終事業費	米加工分野販路開拓支援事業		15,066	8,799			0	0			0	0			0	0	事業費計		15,066	8,799	財源内訳	国庫補助金	7,509	4,220	県 債	0	0	そ の 他	6	6	一 般 財 源	7,551	4,573
内 訳		当初計画事業費	最終事業費																																			
米加工分野販路開拓支援事業		15,066	8,799																																			
		0	0																																			
		0	0																																			
		0	0																																			
事業費計		15,066	8,799																																			
財源内訳	国庫補助金	7,509	4,220																																			
	県 債	0	0																																			
	そ の 他	6	6																																			
	一 般 財 源	7,551	4,573																																			
<p align="center">当初計画及び最終の事業費比較</p> <p align="right">最終事業費 / 当初計画事業費 =(0.58)</p>																																						

7. 事業の効果及び課題の改善状況
 本県の食料品・飲料等の製造出荷額を押し上げるには、米加工分野を成長させる必要があるため、「あきたコメ活プロジェクト推進協議会（108事業者・11団体）」を推進母体として、引き続き県が支援していく必要がある。

8. 事業の効果을把握するための手法及び効果の見込み

指標名	開発商品の販売金額								指標の種類
指標式	開発商品数 × 販売額（千円）								成果指標 業績指標
年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 該当 非該当									
指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	01年度	02年度	全体	
目標a	0	0	0	0	500	10,000	18,000	0	
実績b	0	0	0	0	515	12,360	0	0	
b / a					103%	123.6%	0%	0%	
データ等の出典	工業統計調査（経済産業省）								
把握する時期	当該年度中 月 翌年度 月 翌々年度 08月								

指標名									指標の種類
指標式									成果指標 業績指標
年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 該当 非該当									
指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	01年度	02年度	全体	
目標a	0	0	0	0	0	0	0	0	
実績b	0	0	0	0	0	0	0	0	
a / b								0%	
データ等の出典									
把握する時期	当該年度中 月 翌年度 月 翌々年度 月								

指標を設定できなかった場合の効果の把握方法
 指標を設定できなかった理由
 成果（見込まれる効果）

所管課の評価			評価結果
有効性の観点	住民満足度の状況 a b c 【b又はcの場合の分析】		A
	事業の効果 適用の可否 可 不可 a 達成率100%以上 b 達成率80%以上100%未満 c 達成率80%未満 【b又はcの場合の理由】		B
	令和2年度実績は未判明であるが、過去3年間で29社（52商品）の新商品を開発した。		C
効率性の観点	事業の経済性の妥当性 適用の可否 可 不可 a 1.0~ b 0.8~1.0 c ~0.8 【評価への適用不可、又はb、cの場合の理由】		評価結果
	$\left[\frac{\text{事業終了後の効果}}{\text{最終事業費}} \right] / \left[\frac{\text{当初計画時の効果}}{\text{当初計画事業費}} \right] =$		A 1.0~
	米加工分野の推進母体として、「あきたコメ活プロジェクト推進協議会」が設立された。食料品・飲料等製造出荷額を伸ばしていくには、小規模事業者主体の産業構造からの転換が求められている。		B 0.8~ 1.0 C ~0.8
総合評価	A（妥当性が高い） B（概ね妥当である） C（妥当性が低い）		
	本県の食料品・飲料等製造出荷額の数値を押し上げるためには、米加工分野を新たな基幹分野として成長させる必要があるため、「あきたコメ活プロジェクト推進協議会（108事業者・11団体）」を推進母体として、引き続き県が支援していく必要がある。		
評価結果の類似事業への反映状況等(対応方針)			
政策評価委員会意見			

終了事業事後評価判定点検表

(様式5-1)

(1) 各評価項目の判定基準

観点	評価項目	判定基準	配点	1次	2次	評価結果	
ア有効性	一 住民満足度等の状況	a 住民満足度等を的確に把握しており、満足度も高い	2	2		A:有効性は高い (4点)	
		b 住民満足度等を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が高くない	1				
		c 住民満足度等を把握していない	0				
	二 事業目的の達成状況	a 目標値に対する達成率が全て100%以上	2	1		B:有効性はある (1~3点)	
		b a、c 以外の場合	1				
		c 目標値に対する達成率のいずれかが80%未満	0				
計			4	3		1次	2次
						B	
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	a 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値(注)が全て1.0以上	2	2		A:効率性は高い (2点)	
		b a、c 以外の場合	1				
		c 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値のいずれかが0.8未満	0				
	計			2	2		1次
						A	

(注) 事業経済性の算定式

(事業終了後の効果 / 最終事業費) / (当初計画時の効果 / 当初計画時事業費)

上式で、効果とは事業の効果を把握するために設定した指標の実績値をいう。なお累積の実績値を設定している場合は、前年度からの差し引きによる「単年度増加分」を実績値として用います。

(2) 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	B	
B (概ね妥当である)	総合評価結果が「A」又は「C」以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		